



A



B

～問題～

**AとBの2つの写真カードがあります。
2つの写真カードの違うところは、
どこでしょう？**

答えは、本文へ！

目次

・ T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 69

～この違い、わかりますか？～

<2～4ページ>

・ ものとりつく・まるちとりつくNo.66・新任紹介

<5ページ>

・ 後援会のご案内・決算報告・編集後記（編集部）

<6ページ>

「この違い、わかりますか？」

こんにちは。春ですね。

あちらこちらで春満開！学生や社会人等など、初々しい「新一年生」をあちこちで見かける度、一緒にうっきうきしている今日この頃です。

そんな私が今回ご紹介するのは、わたげのKさんとの日常の一コマから私が学んだ「基本って大事」ということです。

始めにKさんの紹介です。

Kさんはわたげで日々、色々な受注作業に取り組んでいます。一日の日課は、作業の内容を示した写真カードを上から順番に並べたスケジュールでお伝えしています。作業以外にも、買物や家事活動なども行っており、その活動を示す写真を用いてお伝えしています。

写真カードはご本人専用の箱に保管しており、例えば外出先で使った写真カードなどは、ご自身でその箱にしまうことも出来ていました。その他、健康診断や車両の写真カード等、わたげの利用者さんが共有で活用している写真カードも、Kさんが使った後は所定の場所に自分でしまったり、職員に返却することが出来ていました。

そんなKさんですが、いつの日からか、外出先で使ったカードを持ち帰るようになりました。

とある日、外出の予定をお知らせするため、当日のスケジュールに写真カードを組み込もうとしたのですが、専用の箱の中を探しても見つからない…。

「私、無くしたのか？」

まずは自分を疑い、改めてカードを作り直してKさんのカード入れに入れておいたのですが、やっぱり無くなっている…。ご本人に聞いてみると「持って帰るの！」と、強いお気持ちがあるようでした。

今まで、わたげで使うカードはきちんと所定の場所にしまうことが出来ていたKさん、何故持ち帰るようになってしまったのかを考えてみました。

実はKさんには、この一年で生活環境に大きな変化がありました。

一つはグループホーム利用の開始、そしてご実家の引っ越しです。

これまで、ショートステイを利用することはあったものの、グループホームの利用は初めてでした。グループホームを利用するにあたり、ショートステイとは違い、グループホームでの生活がずっと続く、ということが分かるような提示を作りました。

他にも、グループホームの居室に、本人のお荷物や寝具が用意された状態の写真や、生活をイメージできるように浴室や台所の写真、担当の世話人さんの写真などをまとめた冊子を作り、ご本人が安心してグループホームの利用が出来るよう、説明をしていきました。



毎日の流れを上から順に写真やイラストで示した予定表を一週間分用意し、月曜日から日曜日の順に重ねました。カードはリングでつなぎ、一枚めくって後ろに回していくことで「一週間の流れがずっと続く」ということが、イメージできるようにしました。

グループホーム利用当初は、居室の決まった場所に置いて時折見ていたようです。

今でも通所の鞆に大切に保管しています。

グループホーム入居から数か月後にはご実家の引っ越しとなり、その際にも引っ越した先のお部屋の写真等、生活の場が変わることをイメージできるような冊子を作ってご本人に説明をしました。

いずれも、その変化をKさんなりに受け止め、グループホームでの生活や、その後の新居での生活を送っていたのですが、わたげでの行動の変化として「わたげのカードを持ち帰る」ということが始まりました。

ここで、ご本人の行動が変化したきっかけを考察してみました。

Kさんがわたげで使用しているスケジュールは、印刷した写真にラミネート加工をしたものです。Kさんもラミネート加工されたものは、わたげで繰り返し活用するもの、という理解であったと思います。

グループホームの利用を開始するにあたり、私がお渡しした一週間の予定表は、ラミネート加工したもので、それを本人の所持品としてお渡ししました。このことが、曖昧さを生むきっかけのひとつになったと考えました。

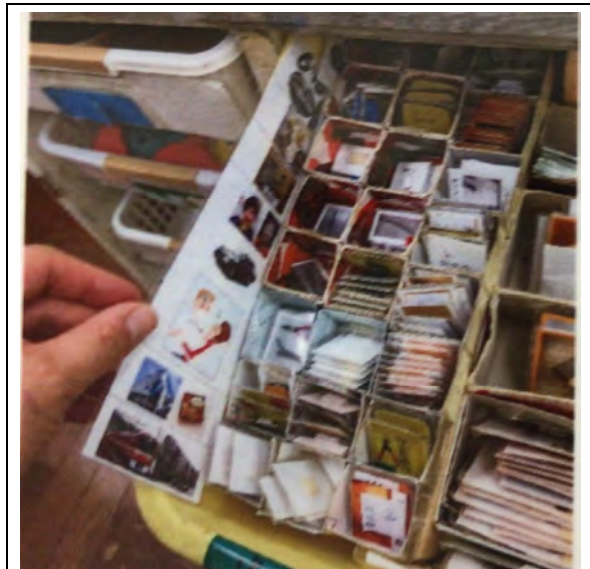
また、Kさん自身、とても物持ちの良い方で、引っ越し前のご自宅はKさんなりの方法で保管されたものが沢山ありました。

引っ越しをきっかけにある程度の断捨離はしたものの、お母様の見立てで、Kさんが大切にしていそうなものはそっくり持ってきました。それでもKさんにとっては、あったはずのものが無かったり、場所が変わってしまったり…と「？」がたくさん浮かぶ状況になっていたのだと思います。

このような生活の変化によって生じたわたげでの行動の変化に対し、Kさんが本来持っている力を活かしつつ、解消するにはどうしたらよいか、検討していきました。

元々は整理整頓が得意で、わたげのカードも決まった場所には片付けられる方です。

そこで改めて「使った写真カードはどこに保管すればよいのか」をお伝えすることにしました。表紙の写真Aのように「しまう場所」の写真を、外出先のカードの裏にセロテープ貼り付けて、使った後はどうして欲しいのかが分かるようにしました。



**Kさんの写真カードをしまう専用の箱。
ここにしまっしてほしいと伝えました。**

買物の前にKさんに写真の意図を説明、いざ買物を済ませてわたげに戻った後、職員と一緒に確認をしながら所定の場所にカードをしまうことが出来ました。…が、その後に確認をしてみると、買い物カードから「しまう場所」のカードが剥がされていました。

「ん？持って帰りたいカードが増えてしまったぞ??」

Kさんには「しまう場所」の写真の意図をご説明しましたが、結果はそのカードを「剥がしてしまった」ことをどう捉えたらよいのでしょうか。

「しまいたくない。持って帰りたい」という意思表示？でもそれで毎回持ち帰ってしまうのは困るので、やっぱり所定の場所にしまっしてほしい…。

そこで今一度、私が行った支援をKさんの視点から考えてみました。そうすると見えてきたのはKさんにとっては「これまで無かった何かが貼り付いた」という現実でした。

「今まで無かったものがここにある」ので「剥がして元通りにしよう」として剥がし、剥がしたものをどこにしまえばよいか分からないので持って帰る、というシンプルなことだったのではないかと考えました。

そこで、買い物の写真をプリントした紙の裏に「しまう場所」の写真をプリントした紙を貼った後、一緒にラミネート加工をし、合わせて一枚のカードになるようにしました(表紙写真B)。するとKさん、裏の写真を見てすんなりと所定の場所にカードをしまうことが出来るようになったのです。

もし「カードを持って帰りたい」という気持ちであれば、形状が変わっても持ち帰ろうとしたでしょう。でもすんなりとカードをしまうことが出来たKさんの様子から、カードをしまうことが嫌だったのではなく、初めの方法では、今まで無かった何かが「貼られている」ことに注目していて、写真の内容そのものには注目できていなかったことが分かりました。物理的に剥がすことが出来ない状況になったことで、初めて写真の内容に注目することが出来たのだと思います。

日常の支援の中で「視覚的な提示」を用意し、ご本人に伝えることはよくあります。その時、利用者の方の反応がこちらの思っていたものとは違うときや、一見「拒否」と思われるような反応であった時、支援者は「嫌なのかな」「納得できないということかな」と、気持ちの部分の先に考えてしまいがちです。そのように本人の気持ちに想いを馳せることとても大切なことです。ただもう一方で、伝わらなかった原因は何か、本人の行動や状況から事実を冷静に見極め、その裏にある理由を探ることも、とても大切になります。そしてその理由は意外とシンプルなものだったりもします。

今回はKさんが持つ「一つのことに焦点を当てて物事を見る」という視点が、写真の内容では無く「セロテープ」に注目したことで起きた一件でした。

今回ご紹介したことは、日常の些細な支援の一部ですが、日常の中の小さなすれや困り感を丁寧に解きほぐしていくことで、大雑把な私と違い、Kさんが細やかな視点の持ち主であることを知り「なるほど、そういう見方、捉え方もあるのか」と改めて感じました。

これからも、色々な視点・観点から丁寧な支援を続けていけたらと思います。 ざっくり笑子。
と、ということで、表紙の答えは、「**A**写真カードをセロテープで貼っている、**B**写真と一緒にラミネート加工している」でした！



春を迎え、わたげの空き地にも春の便りが届きました！



春の便りは「たけのこ」です。

少し土から顔を出した、たけのこたち…

もうそろそろ掘り出す頃か…と待っていると、あっという間に背が伸びていきます。

掘り出すにも一苦勞で、そう簡単には抜けません。伸びるスピード、土に根を張る生命力に、目を見張るものがあります。



今年は、例年よりもたくさん収穫がありました。

給食で調理し「たけのこごはん」になりました。

みなさんと春の味覚を味わいました！

とても柔らかくておいしかったです～

新任紹介



こんにちは。はじめまして。週4日わたげで勤務しています、長谷川弥生と申します。わたげで4カ月が経ち、少しだけ慣れてきました。前職に高齢者介護通所施設に勤務でしたので、日々、勉強です。利用者さんを見ていて、とても感心しています。また、職員の方々も利用者さんに真摯な対応で向き合っている姿に見習うことがたくさんあります。

私自身は、運動はどちらかというと苦手ですが、歩くのは好きで、若い時に一度だけ富士山に登りました。が、高山病になり、登頂した

時にはふらふらであまり記憶がありません。でも、下山した時に温泉に入った時の心地よさはよく憶えています。いつかまた、装備も体力も準備万端で富士登山をリベンジしたいと思います。

また、映画を観たり、温泉も好きで日帰り温泉施設に行きます。お花を観に行くことも好きです。久里浜花の国やソレイユの丘も良いです。横浜に春バラを観に行くことも好きです。桜もちろん！三浦市出身なので、歩くことは慣れています。お散歩が好きなので「ふあず」の辺りや、街中のどこかで外出時には緑色の杖を持った小柄な人を見かけたら、どうか、お声を掛けてください。

日々学びながら、明るくひたむきに歩んでいきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いします。

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会

《2023 年度 決算報告》					
たんぽぽの郷 後援会					
昨年度、皆様からいただきました会費については、下記のと通りの収支でしたので ご報告申し上げます。					
(自2023年4月1日～至2024年3月31日)					
〈収入の部〉			〈支出の部〉		
項目	決算額		項目	決算額	
前期繰越金	9,142		寄付金(わたげへ)	310,000	
会費	306,000		振込手数料	4,971	
			次期繰越金	171	
合計	315,142		合計	315,142	
			以上 会計 常田ちよ子 		
2023年度収支決算書及び関係帳簿・領収書を監査したところ、報告に相違ないこと 証します。					
			会計監査 對比地祐子 		
			高橋正子 		
皆様よりの会費等の決算につきましては上記の如くご報告申し上げます。					

*****編集後記*****



永年勤続10年の表彰式が行われました。
長年のご功績に心より経緯を表し、お祝い申し上げます。
これからもよろしくお願い致します。

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp